



撮影:千代田路子 佐倉義民伝(2015)

百年以上前から三芳町に伝わる「竹間沢車人形」。日本に、三芳町を含め三地域のみにししか現存していない、貴重な伝統芸能です。

第21回

竹間沢

車人形

公演

2024年 **12月1日** (日) 開演 13:30 (開場 13:00)

コピスみよし(三芳町文化会館)ホール

演目 **姥捨て山/佐倉義民伝 / 寿式三番叟/車人形教室**

出演 竹間沢車人保存会、一般公募出演者のみなさん、宝井梅福(講談)、三代目若松若太夫(説経節)

全席自由席 **【一般】1,500円【小中高生】500円** 発売日 **9月14日(土) 10:00~**

※障がい者手帳割引、団体割引(10名以上~)があります。詳細はお問い合わせください。

プレイガイド **コピスみよし(三芳町文化会館)...**049-259-3211 **コピスみよしオンラインチケットサービス**

三芳町立中央図書館...049-258-6464 **三芳町歴史民俗資料館...**049-258-6655

※未就学児はご入場いただけません。※車いす席・親子室・聴覚支援システムのご用意がございます。詳細はお問い合わせください。
※写真撮影・ビデオ録画、録音は固くお断りします。※ご予約後のキャンセル、チケット代金の払い戻しは承れません(公演中止の場合を除く)。

お問合せ **コピスみよし(三芳町文化会館) ☎049-259-3211**



竹間沢車人形企画展:2024年11月1日(金)から公演日まで展示コーナーにて(予定)。詳細はコピスみよしSNSをご覧ください。

Traditional Performing Art of Miyoshimachi The 21st Chikumazawa Kuruma Ningyo Puppetry

Sun.1 Dec. 2024 START 13:30 OPEN 13:00

Admission: [Adult] 1,500yen [student] 500yen *Preschool children not allowed to enter

Contact us: Coppice Miyoshi (Miyoshimachi Cultural Center) +81 (0) 49 259 3211

Kuruma Ningyo is a form of puppet theatre. The puppeteer sits on a small seat with roller wheels (rokuro kuruma) and operates the puppets (ningyo). This kind of art is inherited in only in 3 areas in Japan, including Miyoshimachi.

主催:埼玉県 埼玉県教育委員会 三芳町 三芳町教育委員会 コピスみよし(三芳町文化会館) 埼玉県芸術文化祭実行委員会 埼玉県芸術文化祭三芳町実行委員会
企画制作:トルツリー(株式会社ケイミックスパブリックビジネス)

イベントのPRやアーティストバンク、ホール案内などの芸術文化の情報が満載! 三芳町芸術文化ポータルサイト「MAPS」 [三芳町 芸術](#) [検索](#)

竹間沢車人形 公演復活51年目のあゆみ 一次世代へ守り継いでいく三芳町の伝統芸能

百五十年以上前から三芳町に伝わる「竹間沢車人形」。車人形は、一体の人形を三人で操る文楽人形とは異なり、ろくろ車にまたがって、ひとりで操る人形芝居です。現在三芳町のほかに八王子市と奥多摩町の三地域にしか残っていない貴重な伝統芸能で、埼玉県指定有形民俗文化財に指定されています。これまで多くの方々に愛され続けて、昨年公演復活五十周年を迎えました。次なる百周年を目指して歩み始めた竹間沢車人形保存会。今年、コロナ禍以降中止となっていた一般公募を行い、新たな仲間とともに、古典作品と名作昔話の演目を上演いたします。毎年恒例のコピスみよしでの公演、どうぞお楽しみください。



「佐倉義民伝」『姥捨て山』第14回公演時の公演写真 撮影：千代田路子

竹間沢車人形復活50周年のキセキ
昨年行われた50周年記念公演の、稽古から本番までの様子に密着取材した映像をご覧ください。



壽式三番叟
壽式三番叟は、舞台を清める舞で、その日の舞台を無事に務めあげられますようにと願いを込めて、舞台の幕開けに舞います。

姥捨て山
むかしむかし、ある山奥の村でのこと。「六十歳になつたらお年寄りは親であっても山へ捨てなければならぬ」という殿様の命令で、この息子は自分の母親を背中に背負って山へ連れていくのですが、親子の深い絆や、年を重ねることで身についた知恵の素晴らしさを描いた名作昔話。

佐倉義民伝
今もお日本各地で語り継がれている昔話を、親しみやすい講談での語りとともにお届けします。今回初めて人形を操る一般公募の出演者たちの新鮮な演技にもご期待ください。

甚平渡し場の段／宗吾郎住家子別れの段
江戸時代、下総佐倉藩の農民たちは、領主の悪政や過酷な年貢に苦しめられていました。公津村の名主、宗吾郎は、困窮する人々を救うため、佐倉藩の代官や藩の重役に減税を嘆願しますが取り上げられず、それでは江戸に上り、藩の江戸屋敷で門訴を試みたり、幕府老中まで窮状を訴えましたが聞き入れられず、ついに最後の手段として將軍家に直訴することを決意します。直訴によって妻と三人の子ともたに難が及ばないようにと別れを告げるために、宗吾郎は江戸から公津村のわが家へと戻るのでした。

今回は、妻子のもとへ向かう宗吾郎のために禁を破って船を出した渡し守・甚兵衛とのやりとりを描いた「甚平渡し場の段」と、妻に離縁状を渡し、子どもたちを助当する宗吾郎の葛藤や決意を描いた「宗吾郎住家子別れの段」の二場を上演します。これまで歌舞伎や講談、説経節などかたちを変えながら時代を超えて多くの人々に愛されてきた名作「佐倉義民伝」。正義のために自らの命を犠牲にして人々のために尽くした宗吾郎と、その時代を懸命に生きた人々の物語を、車人形保存会の人形遣いたちが情感豊かに演じます。

車人形教室
車人形の構造や操り方をわかりやすく解説します。実際に舞台にあがって人形遣いを体験していただく方を、当日客席から募集します。

総指揮 前田益夫

演出・舞台監督 丸山昌彦

出演



竹間沢車人形保存会
竹間沢車人形は、竹間沢村の神楽師前田左近が江戸の末期から明治にかけて、吉田三芳の芸名で「吉田三芳一座」として、小さな人形を使った人形芝居から車人形に切り替え、自ら車人形の頭や道具を作り、盛んに興行をおこなった人形芝居です。その後、息子の前田民部に受け継がれましたが、大正時代になり浪曲、映画などに押されて衰退し、大正十年頃に興行が途絶えてしまいました。再び脚光を浴びたのは、昭和四十六年に埼玉県教育委員会が実施した、人形芝居用具緊急調査がきっかけです。前田家の納戸から車人形が発見され、昭和四十七年、五十年ぶりに復活公演が実現しました。それから半世紀にわたり、保存会は竹間沢車人形を守り継いでいます。

一般公募 出演者のみなさん

今年、コロナ禍以降五年ぶりに「人形遣い」裏方スタッフの募集を行いました。集まった計五名が様々な形で協力し合い、稽古を重ねてこの公演に挑みます。



講談 宝井梅福
北海道苫前郡出身
宝井琴梅に入門し芸名を梅星。
平成十年より修行。平成二十二年十月真打ちとなり梅福となる。
都内や地域での寄席やイベント他に「梅福の会」夏のはなし。住吉踊りで浅草演芸ホール八月中席に出演。ネタは古典から新作講談迄。梅福の新作代表は南極や特攻隊の講談。



説経節 三代目若松若太夫
説経師。日本大学芸術学部芸文学科非常勤講師。一九八九年、二代目若松若太夫の公演を聴き、感動を受け入門。一九九八年、三代目若松若太夫を襲名。二〇〇〇年、東京都指定無形文化財(芸能)保持者、板橋区登録無形文化財(説経浄瑠璃)保持者にそれぞれ認定される。



会場へのアクセス

- ・最寄り駅：東武東上線「鶴瀬」または「みずほ台」駅（「池袋」駅から約30分）その後、バスかタクシーで10～15分、徒歩約45分
- ・バス：【開演前】「鶴瀬」または「みずほ台」駅からライブバスが運行しています。駅より約10分「三芳役場」下車。片道220円、現金のみ、交通系ICカード使用不可。【時刻例】鶴瀬駅西口発◎12:40◎12:55◎13:00 ※丸数字は路線番号
- ・【終演後】鶴瀬駅西口行のシャトルバスを運行予定（無料）
- ・車：関越自動車道「所沢J.C.」より約15分、無料駐車場あり（250台）

竹間沢車人形 LINEスタンプ販売中! 全40種類

